

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ダイレックス境港店	階数	地上1F
建設地	鳥取県境港市上道町	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2016年9月14日
敷地面積	9,430 m ²	作成者	池辺 悟
建築面積	2,380 m ²	確認日	2016年9月15日
延床面積	2,315 m ²	確認者	下田 誠



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	74%
③上記+②以外の	74%
④上記+	74%

0 46 92 138 184 230 276 322 368 414 460 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 不特定多数の人が訪れるため、利用しやすく環境に配慮した建物を目指した。		工事中に於ける分別仕分け作業を行う。敷地外清掃活動を行い、工事現場周辺の美化に努める。
Q1 室内環境 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建築材料については、ほぼ全面的にF☆☆☆☆のものを使用している。また、建物内については、禁煙としてい	Q2 サービス性能 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高齢者、身障者の移動等円滑化の基準を満たし、バリアフリーに配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物をセッパッさせることで、圧迫感のない開放的な配置とするとともに、景観条例に基づく緑地を確保した。
LR1 エネルギー 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LDE照明の採用により、モデル建物法によるBEIm値の低減に努めた。	LR2 資源・マテリアル 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 環境負荷低減のため、グリーン購入法適合の照明、空調機をはじめ多数採用した。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 利用者が多く見込まれることから、近隣の交通負荷の抑制として敷地内に駐車場及び駐輪場を確保している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される